

# NSTimes vol.98

リハビリテーション技術部

□一度はこんな光景見たことないですかー？！



何してるんですか??



イメージ



□In-body で骨格筋量を測定しよう！

- ・In-body は微弱な電流を体内に流して骨格筋量を測定する機械です。
- ・リハビリテーション部で使用している機械は持ち運び可能なタイプですので、

**ベッドサイドでも測定可能**で、体動困難な患者さんでも対応可能です！

□なぜ骨格筋量を測定するの？

○サルコペニアとは？

**筋肉量の減少を伴う**筋力や身体機能の低下。

→ **サルコペニア** の有無を評価するため！

サルコペニアになると…

- 転倒リスク増加
- ADL・QOL の低下
- 生存率の低下

まず廃用性筋力低下・合併症予防が重要！

○サルコペニアの診断基準

- ①筋肉量の低下
- ②筋力の低下(握力)
- ③歩行速度の低下

→① かつ ②or③の診断基準を満たすとサルコペニア

□サルコペニアへの介入

## 運動療法 + 栄養療法

→運動と栄養のコラボレーションで骨格筋量の

**加速的な改善**を図ることが重要です！

□リハビリテーション技術部での取り組み

※サルコペニアの患者さんと、非サルコペニアの患者さんで同程度の侵襲が加わると、サルコペニアの患者さんの方が要介護状態となる可能性が高いと言われています…。

リハビリテーション技術部では各病棟の専従スタッフが基本的に全症例に対してIn-body で骨格筋量の評価を行っています。

介入時にIn-body を評価することで、サルコペニアまたはサルコペニアのリスクのある症例を抽出し、リハビリの積極的な介入が必要な症例の存在を判断するスクリーニングの一つとして活用しています！

